

未来を作るインフラ

横内小学校 五年 三浦帆空

ぼくは、家族で函館に行きました。函館には車をフェリーにのせて行きました。函館に行った人は、多くの人が夜景が心に残っていると言っていると思いますが、ぼくが心に残っていることはちよつとちがいます。それはレストランでの食事です。

「食べてもおいしいし、見ているときもあきないな。」

と、ぼくがいました。それは、無限に上がり落ちてくるチョコの液体に、マシュマロを入れて、チョコマシュマロにして食べるものがとても心に残っています。

その船や車、ホテルがインフラにかかっていることをビデオで知りました。ぼくは、インフラを全く知りませんでした。だから、インフラの力はすごいなあ。

と思いました。まるで、とりたての魚のようなじょうたいで、むっから神戸市までに魚を

届けることができるのは、本当にびっくりしました。新せんな魚は、飛行機、トラックなどを使っ  
て届けられました。なぜ少ない水が入ったふくろの中で、魚が三十六時間くらい生き続けられるのか、疑問に思っています。そして、ぼくは、どうやってこのインフラを作った、ぼくたちの生活を支えているのかも、と知りたくなりました。

ぼくは、このインフラを使っているような未来になったらほしいと思うことが二つあります。一つ目は食品ロスを減らすことです。新せんなまま食べ物を送るといふことは、おいしいまま送ることができるといふことです。今、食品ロスが日本の課題の一つになっています。もし、本当のおいしさや味を知った食品ロスは減っていきと思います。

二つ目は、地球温暖化を弱めることです。ぼくは、食品ロスがこの地球温暖化に関係していることを本を読んで知りました。そして、このままだと、地球温暖化が進み、二千年

には、気温が四十一度になったり、北極の氷  
がとけたりしてしまうそうです。だから、イ  
ンフラのカで地球温暖化を弱めていけたらいい  
と思いました。

ぼくのお父さんの友達には道路にかかあ  
ている人たちがいます。自動車を直す人、点  
検する人、トラックを運転する人、道路を直  
す人たちです。みんなインフラに関係してい  
ると思います。こういう人たちがいるおかげ  
で、ぼくたちは日常の生活を送ることができ

ます。これからの未来は、今までよりも複雑  
になり、生活を支える人を増やさなければな  
りません。だから、ぼくも生活を支えて、イ  
ンフラに関係する仕事をしたいと思ひ  
ます。インフラを知ること、ぼくは自分の  
未来について考えることができ、とてもよい  
きっかけになりました。